

# 学術ポータル担当者研修レポート

平成 19 年 11 月 22 日

受講者番号 12-1 江幡 歌奈子 東邦大学医学メディアセンター

受講者番号 12-2 逸見 真恒 東邦大学ネットワークセンター

(1) 発表資料の状況設定

上部組織である、メディアネットセンターの運営委員会において、運営委員である職員および教員を対象に、次年度事業として学内の学位論文のリポジトリを始めたいという旨の提案をし、承認を得て、学内広報への協力をお願いする。

(2) 発表内容抄録と研修当日の講師からの助言、及び研修発表との改訂部分

a)発表内容抄録

機関リポジトリとはその機関内で生産された様々な情報やデータを保存・蓄積し、インターネットを通じて公開を行うシステムである。東邦大学では2006年よりToho Academic Archivesとして、D-spaceを使用した機関リポジトリを公開している。現在公開されているのは、研究業績集および海藻データベースの2つのコンテンツであるが、2007年度には古書の額田文庫をイメージ化し公開する予定であり、現在作業中である。

2008年度の追加事業として学位論文の収録・公開を提案する。対象は東邦大学で学位を授与した医学部、薬学部、理学部の修士・博士の論文である。年間200人強分のデータが増加予定であり、登録作業は原則的に学生本人が行うこととする。

学内で生産された論文を収録し公開することは、学術研究成果の安定した公開と蓄積として意義のあることであるが、登録されたコンテンツは全世界からGoogle等のインターネット検索を通して利用可能であることから、東邦大学の研究教育業績を世界にアピールする事業ともなる。

登録作業は原則的に学生本人であるが、メディアセンターが全面的にバックアップを行い、学生へのIDパスワードの配布や、著作権処理、論文のデータ化などもサポートする。登録された論文は担当教員のチェック後に公開することとし、登録項目はタイトル、著者、掲載雑誌名等の書誌事項のほか、キーワード等検索に必要な項目と論文自体のデータである。

予定スケジュールと必要経費は資料の通りであるので是非承認をいただきたい。

b)研修当日の講師からの助言

特に助言は無かったが数点質問があった。

著作権処理を誰が行うのか？という質問には、メディアセンターでサポートする旨を回答した。

論文掲載のタイミングに関する質問には、著者の事情を優先する旨を回答した。

c)研修発表との改訂部分

特に改訂はしなかった。

(3) リハプレゼンの概要(日時、場所、発表者、発表対象、参加人数 etc.)

2007年9月6日に、研修会参加の2名によって、内部の勉強会の席上でプレゼンを行った。

参加者は7名。

(4) リハプレゼンへの反響(アンケートをとった場合の結果、感想の声等)

事業としては有効であるが、教員や教務担当者との連絡が難しい、年間200件とはいえ登録確認などの作業が大変である等の意見があった。学生本人に登録してもらうためには登録作業の画面など作業方法を簡素化する必要もあるので、実現のためには更に具体的に検討する必要があると感じた。

当初は修士・博士の両方を想定していたが、件数が少なく利用の必要性の高い博士のみからまず始めてみるのも有効ではないかという意見があった。

(5) その他(備考、今後の予定と希望 etc.)

今後の事業案として継続して検討していくことになった。